

こちら営農・技術センター

農薬研究室

ねぎ、たまねぎだけでなく、かきやみかんにも発生

近年問題となっている ネギアザミウマ

ネギアザミウマの生態

ネギアザミウマ(学名:*Thrips tabaci* Lindeman 英名: Onion Thrips)は全世界に広く分布しており、日本でも、北海道から沖縄まで分布が確認されている。成虫でも体長が1.1~1.6mmと、非常に微小な害虫である。寄主植物としては、ねぎやたまねぎが属するユリ科植物以外にも、多くの科の植物が知られている(表-1)。ねぎの葉などで多発した場合、加害された部分の色が抜けてしまい、商品価値が著しく落ちるため問題となる。ネギアザミウマは成虫が植物組織中に産卵し、そこから幼虫が孵化して葉などの植物体を餌として生育する。そして、十分生育した幼虫は地表に移動して土中で蛹になり、成虫に羽化して、再び植物に産卵を開始する(図-1)。

ネギアザミウマの分類

ネギアザミウマはアザミウマ目アザミウマ亜科に属しており、この亜科には農業上の問題害虫であるミナミキイロアザミウマやミカンキイロアザミウマも含まれている。これら2種は海外から侵入したものであるが、ネギアザミウマは古くから日本にいた在来種である。

ネギアザミウマの近年の動向

ネギアザミウマは古くからねぎやたまねぎの重要害虫として知られていたが、近年、被害をあたえる作物の範囲が拡大しており、かきやハウスみかんなどでも問題になっている。この原因としては、気象条件の変化や栽培・防除体系の変化、海外から新系統の侵入などが考えられているが、詳細は不明である。

ネギアザミウマの防除

一般的に害虫の幼虫の薬剤感受性は、

成虫と比較して高いので、ネギアザミウマについても、発生の初期に注意して防除をおこなう。また、ネギアザミウマ成虫は活発に飛翔するため、飛来源となる植物がある場合、その対策も考慮する必要がある。なお、実際の農薬の使用にあたってはラベルの表示事項を必ず読み、登録内容を遵守する。

農薬研究室では、ネギアザミウマに対する各種薬剤の検定試験に取り組んでおり、有望な薬剤があれば関係メーカーに登録促進を働きかける予定である。

【全農 営農総合対策部
農薬研究室・西森俊英】

表-1 ネギアザミウマの寄主植物

科名	植物名
アブラナ科	キャベツ
アヤメ科	グラジオラス・フリージア
イネ科	エンバク
ウリ科	メロン・キュウリ・スイカ・カボチャ
キク科	キク・アザミ類・ダリア・マリーゴールド・チシャ
クワ科	クワ・イチジク
ケシ科	ケシ
ゴマ科	ゴマ
ゴマノハグサ科	キツネノテブクロ
シソ科	シソ・サルビア
スイカズラ科	ニワトコ
タデ科	ソバ・ハナタデ
ナス科	トマト・ナス・タバコ・ジャガイモ
ナデシコ科	カーネーション
バラ科	バラ
ヒガンバナ科	スイセン・アマリリス
マメ科	ダイズ・インゲン・エンドウ・ムラサキツメクサ・コマツナギ
ミカン科	ウンシュウミカン
ユリ科	タマネギ・ネギ・ニラ・ニンニク・ワケギ・ノビル・アスパラガス・オモト

「農作物のアザミウマ 分類から防除まで」梅谷献二他著 全国農村教育協会より引用

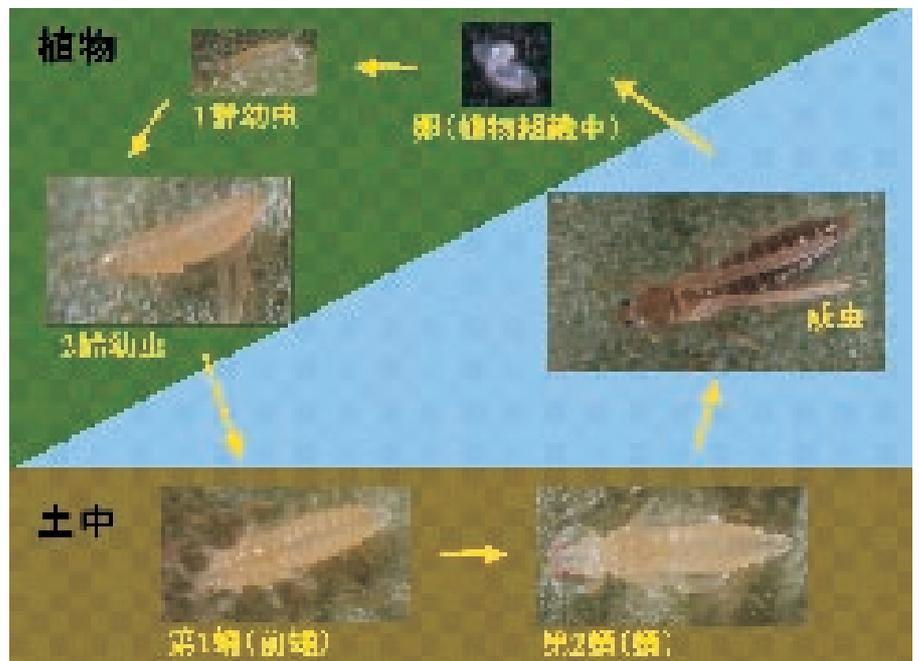


図-1 ネギアザミウマの生活環